

## 献 辞

2017年（平成29年）から6年間にわたって経済学部長を務めた櫻庭千尋先生が23年（令和5年）3月末をもって定年退職されます。学院創設130周年の節目を含む大切な時期に、経済学部の舵取りを担った櫻庭先生は、一言で言えば、「仕事の人」でした。膨大な学内調整や教学事務を精力的にこなし、疲れた様子を見せることもありません。故胸永等学院専務理事（当時）は生前、「仕事のストレスは仕事で発散する」と冗談まじりに語っていましたが、櫻庭先生も同様の労働哲学を持っているのではないかとさえ思われました。

そのような櫻庭先生の仕事ぶりは、おそらく前職の日本銀行時代に培われたものでしょう。学生グループのインタビューに、先生は次のように答えています。

「日銀時代、作業量が多く、期限も決まっているので実に忙しく、徹夜続きも多かった。若いころ、『バカをやったこと』は大いに役立った」

今の感覚からすれば、非常識なまでの働き方だったのかもしれませんが、先生には、それを乗り越えてきたのだという自負心があるようでした。

櫻庭先生の日銀勤務は33年間に及び、調査統計畑および国際畑に長く在籍しました。

横浜国立大学経済学部を卒業後、1981年に日銀に入行し、その後、カリフォルニア大学サンディエゴ校（UCSD）大学院経済学研究科に留学。帰国後は、名古屋支店を経て調査統計局に勤務、国際局国際調査課長、国際局総務課長、調査統計局審議役（統計担当）を歴任しました。2009年から3年余、総務省統計委員会委員を兼任したほか、ほぼ同じ時期に国際決済銀行（BIS）のアービング・フィッシャー委員会（IFC）の副議長、10年10月から12年11月の2年間、国際通貨基金（IMF）における金融健全指標協議の日本代表を務めています。14年、国際局審議役を最後に、日銀を退職し、本学教授に就任しました。

櫻庭先生が主導した学部カリキュラムの構築・再編は、こうした日銀時代の経験と思考法に負うところが大きかったものでしょう。先生はまた、経済理論や企業行動の実証分析、コロナ禍における外出自粛による日本経済への影響など、理論と実証にまたがる広角的な研究を進めています。

櫻庭先生が学部長を務めた6年間は、急速に推進された「改革」の時代と重なります。大学間競争が激化する中、本学は生き残りをかけて、さまざまな施策を打ち出すよう迫られています。そうした中で、櫻庭先生が学部長として最も強く求められたのは、「出口保証」でした。入学生に対し、4年間の教育を通じて社会で通用するための「知的武装」を施し、卒業後の人生を雄々しく生き抜いていくための羅針盤を持たせるということです。

この難題に対処するため、櫻庭先生主導の下、2023年度から新たに「7コース制」が導入されました。従来の「5コース4プログラム制」を再編したのですが、学生の目的意識の向上に資することが期待されています。

特別選抜プログラム「OE50」の開始に当たっても、当初の漠然としたコンセプトを具体的な科目のカリキュラムに鑄直していったのも櫻庭先生でした。

教学施策以外に、学部長在任中の記憶に残る事柄を尋ねたところ、櫻庭先生はその一つとして2018年6月18日の大阪府北部地震を挙げました。

この地震では、安威キャンパスも少なからず被災しました。学生の安全が確保されるまで、地震後の10日間は全面休講になりましたが、先生は被災後の「教職員のフレキシブルな対応を見て、学院の団結力を実感した」と振り返ります。

同年11月の学院130周年式典への参加も得難い経験でした。

先生は、「教育とは1コマの授業で終わるものではなく、学生・生徒にとっては一生の学びであり、その場を提供する学校の大切さを再認識した」として、全員参加の行事やイベントが学生に及ぼすインパクトを強調しています。

櫻庭先生にとって、学院の大規模イベントはいずれも良い思い出になっているようでした。2014年、こども園から大学までの学院教職員全員で親睦を深めるための運動会のような交流イベントが開催されましたが、「一体感を感じ、とても楽しい機会だった」としています。

学生の成長も大きな楽しみでした。「ゼミの初顔合わせでは見出せなかった、各自の秘めた意思や隠れた才能が学期を逐って開花したことを毎年喜んでいた」と言います。

櫻庭先生は実務家教員として採用されましたから、教育者としての経験がさほど潤沢ではないまま教壇に立ったことになります。おそらく、当初はとまどいも多かったでしょうが、学生の能力を見出し、伸ばしていくという気持ちを人一倍強く持っていました。

その気持ちを抱きながら、肉体的にも気力的にもまだまだ働けるはずですが、櫻庭先生は定年を機にいったん歩みを止め、晴耕雨読の生活を送りたいとの希望を口にしています。

私はその言葉を諒といたします。そして櫻庭先生の新たな門出を祝福し、日銀、追手門に次ぐ「第三の人生」にご多幸あれとお祈り申し上げ、ささやかな献辞といたします。

(経済学部副学部長 佐藤 伸行)